

研修報告書 No. 3

所 属： 大阪医科薬科大学病院

研修先： 田野病院

私は四国一小さな町と謳われる高知県田野町にある田野病院で5週間の地域医療研修を行いました。

田野病院は高知県東部の医療を担う非常に重要な医療機関であり、高齢化率4割の田野町はもちろん、それよりもさらに高齢化の進んだ山間部の村や、より東の室戸市までカバーしています。病床数は急性期と回復期・リハビリ病棟で約100床、時間外救急も受け入れており、外来は様々な科の先生が遠方から決まった曜日に来ていました。これまで都市部の大学病院をメインに見てきた私にとっては、まさに「田舎」、地域医療研修の最たる例ではないかと思ひ、このような貴重な経験にとっても感謝しております。医師不足という現場がいかにも効率性と万能性が求められることか、高齢の患者さんが圧倒的に多く、高齢者の疾患に対して、外来・入院でのリハビリがいかにもその人の生活を支えているかを患者さんのお話からも身にしみて感じるようになりました。しかし、介護サービスの事業所が相次いで閉業しており、ヘルパーの減少も続いているという社会問題もあり、高齢者がより良く生活していく資源が十分ではなく、ケアマネに負担がいつてしまう現状も知ることができました。

田野病院では、毎日非常に多様な研修スケジュールを組んでいただき、自分の病院では経験することのなかった研修をすることができました。特に、介護老人保健施設、老人ホームなどの地域の施設へ、見学や訪問診療、訪問リハビリなどいろいろな側面から訪問できたことは、多職種を理解はもちろん、病院の外でどのようなサポートが患者さんにはあるのかを実際に見ることで、包括的なケアを知ることができました。また、会長先生はじめ、常勤の先生方の外来は、ご高齢の方が多いため、患者さんとどのようにコミュニケーションをとるのか、言葉選びから話す速度、患者さんのアドヒアランスまで汲んで診療するか、医学を超えた学びになりました。回復期リハビリ病棟での退院カンファレンスでは、リハビリセラピストの先生、MSW、病棟看護師など多職種が集い、それぞれの面から1人の患者さん、そしてその方を取り巻く家庭環境、居住環境など細やかなアセスメントで議論がなされ、病院から出た後のことも綿密に考えられている様子は感銘を受けました。そして、指導医であった院長先生の小児神経外来では、特に少子化が進んでいる地域でも小児科の需要は依然として存在しており、外来に来る患者さんのみならず、発達障害に向き合う教育機関などでも見解を求めて医師という立場が必要とされていることも知りました。

今回この小さな町で得た臨床研修はとて大きなものだと実感しております。日本全体の高齢化・人口減少は現実を見ると止まることはありません。その中で、自分の立場で何ができるか、目の前の独居の高齢者の尊い命を全うしてもらうために尽力する医療者一人一

人がいました。なかなか解決しない社会問題を抱えながらも、少しでもより良い社会を目指して互いに助け合う地域社会を、一医師としてどんなことができるか、現場の医学的知識は言うまでもなく、社会での医療のあり方を考えさせられる素晴らしい機会となりました。

今回の地域医療研修を許諾してくださった田野病院関係者の皆様には心より感謝を申し上げます。ありがとうございました。